

黙示録12章7-12節 「天における戦い」

1A 終わりの日の戦い 7-9

1B ミカエルと竜の戦い 7

2B 天の場所をなくす竜 8

3B 地上に投げ落とされる悪魔 9

2A 神の救いと権威の現れ 10-12

1B 兄弟の告発者の駆逐 10

2B 血潮と証しによる勝利 11

3B 悪魔の最後のあがき 12

本文

黙示録12章を開いてください。私たちの学びは、前回 12 章 6 節まで見ました。今晚は、7 節から 12 節です。(本文を読む)

前回、神が、人類に対する壮大なご計画の中で、イスラエルを選ばれたことを学びました。それは、アダムが罪を犯した時以来、人を悪魔の仕業から救うために、女の子孫を与えることを約束されたところから来ます。その女の子孫は、アブラハムの子孫に限定されました。それが、イスラエルの始まりです。イスラエルが強い国民となり、そのことで神が、ご自分を証しされています。

そして、その民から子孫キリストが現れて、世界の全民族がこの方にあつて祝福を受けるようにされました。悪魔は、なんとかしてこの神ご計画を阻止するべく、あらゆる妨害を行ってきました。聖書の時代も、そして今も、イスラエルの民や国に対する攻撃が多いのは、そのためです。そしてキリストがお生まれになる頃に、天における戦いから、墮落した天使たちが投げ落とされました。福音書や使徒の働きで、悪霊の働きが活発だったのは、このせいでありましょう。そして、キリストがお生まれになった時には、ヘロデ大王がベツレヘムの二歳以下の子を全部殺害しましたが、その背後にも悪魔がいました。

そして、キリストは天に昇られ、今、神の右の座に着いておられます。再び戻られたら、鉄の杖をもって治められます。けれどもその前に、イスラエルの残りの民は、荒野に逃げなければならなりません。それが、イエス様がオリーブ山で語られていた、荒らす忌まわしい者のことです。荒らす忌まわしい者が、いかにユダヤ人を滅ぼそうとするのかは 13 節以降で、見ていきます。

1A 終わりの日の戦い 7-9

そして 7 節以降で、天における戦いに入ります。私たちが今晚、知っていくべきは、神の壮大な

ご計画がある中で、霊の戦いが激しく繰り広げられているということです。今、新しい信者の学びを、バプテスマを受けた方々に行っていますが、そこにも「霊の戦い」という項目があります。イエスを自分の救い主、主として信じるというところには、実は悪魔が激しく戦ってきている、霊の戦いの中に入ることを教えています。けれども、私たちはイエスを神の御子と信じる信仰によって、勝利しています。サタンを恐れることは全くありません。CS ルイスという、著名なキリスト教作家はこう言いました。「悪魔について、我々人類は、二つの正反対の過ちに陥ってしまうものがあります。一方は、悪魔の存在を信じないことである。他方で、悪魔に、過度に興味を抱いてしまうことです。」¹このバランスが大事でしょう。悪魔の策略を軽視するのも悪魔の思うつぼだし、悪魔の策略を過大評価して、そればかり考えるのも、悪魔の思うつぼです。

1B ミカエルと竜の戦い 7

^{7a} さて、天に戦いが起こって、ミカエルとその御使いたちは竜と戦った。

私たちは前回、竜は、「七つの頭と十本の角を持ち、その頭に七つの王冠をかぶっていた。」という箇所を読みました(3 節)。これが、ダニエル書 7 章に関わる幻であり、第四の獣は、鉄の牙と十本の角を持っていました。それは、そこから小さな角が生え出て、それが大きな角となり、世界を踏みしめることが明らかにされています。反キリストの現れです。7 章に出てくる獣は、イスラエルを支配する超大国であり、バビロン、メディア・ペルシア、ギリシア、そしてローマであります。そのような、イスラエルを取り巻く超大国には、その背後に悪魔が働いていて、その権威と力と位が獣に与えられることが預言されています。

そして、そうした国々の戦いが、終わりに大いなる戦いとして起こることが 11 章以降に書いてあります。そして、その戦いの終わりに反キリストが現れることが書かれていますが、その戦いの背後には、実は天において、天使たちの戦いが繰り広げられていることが、11 章の手前の 10 章で明らかにされているのです。ダニエルのところに来た、主の使いは、ペルシアの君が自分に立ちあがっていたことを話しています。これは、ペルシアの国の背後で、その国を支配する天使であり、墮落した天使です。けれども、「最高位の君ミカエルが私を助けに来てくれた。(13 節)」とあります。ミカエルが助けに来ている、というのです。ここでは最高位の君と呼ばれていますが、以前の訳では天使長とか大天使とか呼ばれていました。天使の中でも位の階級や権威系統があり、ミカエルはその中で最高位です。

そして、主の使いは、ダニエルに対してこう言われます。10 章 20-21 節です、「すると彼は言った。「私がなぜあなたのところに来たか、知っているか。今、私はペルシアの君と戦うために帰って行く。私が去ると、見よ、ギリシアの君がやって来る。21 しかし、真理の書に記されていることを、あなたに知らせよう。私とともに奮い立って、彼らに立ち向かう者は、あなたがたの君ミカエルのほ

¹ <https://www.azquotes.com/quote/691990>

かにはいない。」ペルシアの国の背後で働いている墮落した天使がおり、それと戦うと言われます。さらに、ギリシアの君がやって来ると言われます。ギリシアの国が台頭し、その国を左右する墮落した天使がおり、悪魔の思いを果たそうとするのです。イスラエルは、激しい迫害を受けます。そして11章を読むと、アンティオコス・エピファネスによる大迫害が預言されており、終わりの日には反キリストによって滅ぼされそうになる危機に陥ります。

そのような絶体絶命のような中で、天において、ミカエルがイスラエルのために戦うのです。今、ダニエル 11 章 21 節を読んだように、「私とともに奮い立って、彼らに立ち向かう者は、あなたがたの君ミカエルのほかにはいない。」ということなのです。ペルシアやギリシアの背後に墮落した天使がいましたが、イスラエルの背後には、神に仕える天使ミカエルがいるのです。そこで、絶体絶命の時にどうなるのか、12 章を読むと分かります。「12:1 その時、あなたの国の人々を守る大いなる君ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかしその時、あなたの民で、あの書に記されている者はみな救われる。」このように、イスラエルの民が苦難から救われるために、イスラエルの民を滅ぼそうとする悪魔とその使いと戦う、ということなのです。

2B 天の場所をなくす 竜 8

^{7b} 竜とその使いたちも戦ったが、⁸ 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。

竜と、竜に従う使いたちが、「天にはもはや彼らのいる場所がなくなった」と言っています。ということは、天にそれまで彼らのいる場所があったということになります。はたして、竜は天において、どのような場所があったのでしょうか？

預言者イザヤが 14 章にて、エゼキエルが 28 章にて、それぞれ墮落する天使の姿を教えてください。一方では明けの明星という名で、もう一方ではケルブとして現れていました。ケルブはエデンの園にいたことが書かれていますが、「高い山」(28:16)とありますが、そこから追い出されたことが書かれています。イザヤ書でも、「北の果てなる会合の山で座に着こう。」と言っています(14:13)。そうした、神の御座があったであろう高い山の、しかも神の御座のところに着こうとしたために、天から落ちたことが書かれています。その落された後、エデンの園にまだいた悪魔は、蛇の形を取り、エバを惑わしました。

しかし、彼はまだ「天」にいました。天から落ちたのに、また天にいるというのは、どういうことか？ コリント第二において、パウロが「第三の天に引き上げられた」話をしました。第三ということは、第二と第一があったということですが、サタンは第三の天、神の御座のある天からは落ちたけれども、第二の中間にある天にいるのではないか？と思われれます。エペソ書では、「空中」という言葉が出てきます。「エペ 2:2 かつては、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持

つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。」天といっても、御座のある天ではなく、空中と呼ばれるところに、権威を持つ支配者、人を罪の虜にして、彼らに働いている霊として動いています。ヨブ記 1-2 章を見ますと、サタンが神に近づいて、ヨブのことで挑みかかっているのを見ますね。空中にいるサタンは、それでも神の前にも出ていくことができるし、また地上にいる者たちを打つこともできる、ということです。しかし、その空中とも呼ばれる天においても、場所がなくなったということです。

3B 地上に投げ落とされる悪魔 9

⁹ こうして、その大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれる者、全世界を惑わす者が地に投げ落とされた。また、彼の使いたちも彼とともに投げ落とされた。

ヨハネは、神から受けた啓示によって、ここで竜も、あのエバを惑わした蛇も、そして悪魔、サタンも同じものであることを明らかにしています。悪魔というのは、中傷者というのが元々の意味です。サタンは敵対者という意味です。そして、全世界を惑わす者とも言っています。すべての者が、悪魔の支配の下で、惑わしを受けています。

しかし、今、「地に投げ落とされた。」とあります、もはや、天において神に近づくこともできないところに落ちたのです。この落ちたのは、13 章を見ますと、最後の第七十週の半ば辺りではないか思われます。その後半に竜が、獣に自分の権威と力と位を与えているからです。こうして、大患難の後半は、竜が地上にいて直接、獣に関わっていく、最悪の時を迎えます。

ちなみに、竜は、地上の再臨のイエス様によって、底知れぬ所に鎖で縛られます。それから、千年後に解き放たれて、今度は火と硫黄の池に投げ込まれるのです。これで分かりますか？初めに天に、神のおられる御座の近くにおいて、そこから落ちて空中に行き、そこからも落ちて地上に投げ落とされ、それから底知れぬ所に縛られ、ついに火と硫黄の池に投げ込まれます。上から下に、落ちていくのです。しかし、その問題は？という、自分でいと高き方のようになろうと、高ぶったからです。自分を上へ上へと高めると低められます。けれども、聖書は、自分を低くする者は、神が高くてくださると教えています。イエス様が言われましたね、「ルカ 18:14 あなたがたに言いますが、義と認められて家に帰ったのは、あのパリサイ人ではなく、この人です。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。」

2A 神の救いと権威の現れ 10-12

1B 兄弟の告発者の駆逐 10

^{10a} 私は、大きな声が天でこう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と王国と、神のキリストの権威が現れた。」

この歓声は、前回の学び 11 章 15 節にも出てきました。「第七の御使いがラツパを吹いた。すると大きな声が天に起こって、こう言った。「この世の王国は、私たちの主と、そのキリストのものとなった。主は世々限りなく支配される。」」このときの歓声は、この世の国々がキリストの力と権威に服することが書かれていますが、ここでは霊的存在である悪魔とその手下がキリストの力に対抗できないことが書かれています。

天においては、このことを、「神の救い」と呼んでいます。神の救いとは、人々が、悪魔の支配から御子の支配の中に移されることを言います。「コロサイ 1:13 御父は、私たちを暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。」パウロが、イエス様から言われた言葉をヘロデにこう伝えました。「使徒 26:18 それは彼らの目を開いて、闇から光に、サタンから神に立ち返らせ、こうしてわたしを信じる信仰によって、彼らが罪の赦しを得て、聖なるものとされた人々とともに相続にあずかるためである。」闇の勢力に、キリストの力と王国が現れた時に、神の救いが訪れるのです。私たちはすでに、この力にあずかって、それで救われています。そして、その力が完全な形で現れるのが、終わりの日です。

^{10b} 私たちの兄弟たちの告発者、昼も夜も私たちの神の御前で訴える者が、投げ落とされたからである。

先に言及したヨブ記 1-2 章のことを思い出してください。サタンはヨブのことを神の前で告発しました。ヨブが主を恐れるのは祝福されているからで、あなたよりも祝福の方が大事だと訴えたのです。悪魔は兄弟たちの告発者です。一方、私たちの主、イエス・キリストは弁護者であり、執り成し手です。ヨハネの手紙第一 2 章 1 節にこう書いてあります。「2:1b しかし、もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の前でとりなしてくださいる方、義なるイエス・キリストがおられます。」

有名なローマ 8 章の後半にも、サタンとの確執が背景にあります。ローマ書は信仰による義がその主題ですが、その部分を攻撃するサタンに対する言葉をパウロは書いています。「8:31-34 では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。32 私たちすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるでしょうか。33 だれが、神に選ばれた者たちを訴えるのですか。神が義と認めてくださるのです。34 だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。」

今や、天において、兄弟を絶えず告発していた者がいなくなり、追い出されました！このような時がいつか来ます！その時には私たちを責める者がいなくなるのです。

2B 血潮と証しによる勝利 11

¹¹ 兄弟たちは、子羊の血と、自分たちの証しのことばのゆえに 竜に打ち勝った。彼らは死に至るまでも 自分のいのちを惜しなかった。

ここの兄弟たちは患難時代に殉教した人たちですが、今のキリスト者にも同じことが言えます。私たちが悪魔に打ち勝つには、いや既に打ち勝つことができているのは、何でしょうか？一つは、「子羊の血」です。子羊の血が、私たちの罪を完全に洗い清め、罪を私たちから拭い去ることができます。悪魔は私たちに告発します。しかし、そのとき、私たちはこう祈りましょう。「私が、こんなにひどい罪人であるのはそのとおりです。だから、主よ、あなたはこの私のために、十字架につけられて、血を流されました。」そのときに、悪魔は逃げ去ります。私たちに罪に定めようとする悪魔は、決して私たちに触れることはできません。そして、私たちが主にお仕えできるその良心を清く保つことができるのは、唯一、流された血潮なのです。「イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人たちへ。(1ペテロ 1:2)」

それから、「自分たちの証しのことば」です。これは、単に自分の救いの証しをする、ということではありません。神から与えられた良心にしたがい、脅されても、何をされても、キリストを主として心であがめることです。「1ペテ 3:14-15 たとえ義のために苦しむことがあっても、あなたがたは幸いです。人々の脅かしを恐れたり、おびえたりしてはいけません。15 むしろ、心の中でキリストを主とし、聖なる方としなさい。あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでも、いつでも弁明できる用意をしていなさい。」そして、その証しを立てることで、霊的な力と権威が現れます。隠したところには、現れません。キリストの告白はこうも大切なのです。「マタ 10:32-33 ですから、だれでも人々の前でわたしを認めるなら、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。33 しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも、天におられるわたしの父の前で、その人を知らないと言います。」

そして彼らは、「彼らは死に至るまでも 自分のいのちを惜しなかった。」とありますが、サルデスの教会に対してイエス様が、「死に至るまで忠実でありなさい」と命じられました。7章にも、患難時代の聖徒たちが、患難の中で殉教して、それで天におられる神の前に立っている姿があります。そして私たちは、肉体は殺されていなくとも、日々、自分のいのちを捨てる生活を歩んでいます。死んでいるとみなすことによって、キリストが生きてくださり、証しを立てることができます。

3B 悪魔の最後のあがき 12

¹² それゆえ、天とそこに住む者たちよ、喜べ。しかし、地と海はわざわいだ。悪魔が自分の時が短いことを知って激しく憤り、おまえたちのところへ下ったからだ。」

天に住む人々と、地と海に生きるものとの対比です。天では、悪魔と手下のしわざが、兄弟たち

への告発がなくなるので、喜んでいます。けれども、地では災いが極みに達します。13章で、獣の国ができます。

しかし、悪魔が激しく怒っているのは、「自分の時間が短いことを知って」激しく憤っているからだと言っています。「最後のあがき」です。彼はキリストが来られて、自分が底知れぬ所で鎖につながれる時間が近づいていることを知っているのです。それで暴れるのです。ここは大事ですね、私たちは悪魔が激しく憤っているのを見ても、それは、相手が焦っているからです。そう見ていくことは大事だし、事実そうなのです。

私たちは、霊の戦いの性質を知る必要があります。霊的な攻撃を受けている時に、ひるまないでください、それは霊的に前進している証拠です。悪魔が焦っているのです。慌てているのです。自分たちの領域に、神の御霊によって進入しているから抵抗しているのです。それで攻撃が増えるのです。しかし、私たちは彼の恫喝に対して、怯えるのではなく、むしろ「攻撃は最大の防御」と言われるように、さらに攻めていけば良いのです。

迫害下にあるキリスト者に、ペテロが励ましているところを読みます。「I ペテ 5:8-10 身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。9 強く信仰に立って、この悪魔に対抗しなさい。ご存じのように、世界中で、あなたがたの兄弟たちが同じ苦難を通ってきているのです。10 あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあって永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみの後で回復させ、強く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。」